

活動報告 2022-2023

パレスチナ赤新月社・日本赤十字社

第二期医療支援事業（ガザ支部事業）

支援の背景

度々の地域の緊張の高まりから、パレスチナのガザ地区では、重症患者をイスラエルの高次病院へ搬送することが日々困難になり、高度医療を地区内で完結させる必要が生じています。一方でパレスチナの人びとは移動の制限もあるため、医療従事者が日々進歩する医療技術について学ぶ機会も限られています。日本赤十字社（日赤）は2019年10月からガザ地区においてパレスチナ赤新月社（パレスチナ赤）が運営する病院への医療技術支援を行ってきました。

2020年には新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延や情勢不安により日赤スタッフの派遣中断を余儀なくされましたが、リモート支援という形でプロトコル（手順書）の作成や関係者向けのトレーニングの実施を支え、情勢を見ながら2022年末より派遣再開に向けた準備を進めてきました。2023年7月には日赤中東地域代表、医師2名、看護師1名、助産師1名の5名からなるチームの派遣をし、パレスチナ赤との合同ニーズ調査を実施し、その結果、当面の活動を①看護実践の向上と②新生児ケアの強化に定めました。あいにく2024年10月7日以降のイスラエル・ガザ人道危機により事業は中断しておりますが、それ以前の活動についてご紹介します。



1. 看護実践の向上

看護プロトコル（手順書）の作成は2019年当初からリモート支援の期間中も含め継続していた活動の一つです。大切なのは作成した手順が現場で実行され、医療の質が向上することです。日赤の要員が実際の現場に同行し、現地スタッフと一緒にオペレーションを確認し、OJT（実施研修）を行いました。



2. 新生児ケアの強化

日赤とパレスチナ赤との合同ニーズ調査ではアルクッズ病院の周産期・新生児領域における知識や技術の向上も特に重要と確認されました。出生率の高いガザでは、NICU（新生児集中治療室）の役割が重要ですが、大規模な人事異動などから経験の浅いスタッフへの教育が喫緊の課題であり、取り組んでいました。



■ 日赤の中東人道危機救援事業 ■

- ・WEBページは[こちら](#)です。
- ・ご寄付は[こちら](#)から承っています。



問い合わせ先

電話番号：03-3437-7088
メール：kokusai-kyuen@jrc.or.jp
担当：国際救援課 事業係 中東担当

